

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-56472

(43) 公開日 平成9年(1997)3月4日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 6 B 5/00		7456-3K	A 4 6 B 5/00	Z

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平7-220955

(22) 出願日 平成7年(1995)8月30日

(71) 出願人 594001535

晴海産業株式会社

長野県伊那市大字伊那3578番地

(72) 発明者 堀 秀臣

長野県伊那市大字伊那3578番地晴海産業株式会社内

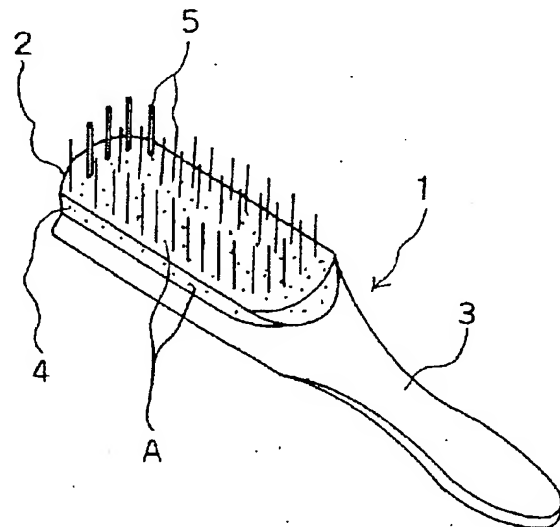
(74) 代理人 弁理士 唐木 浄治

(54) 【発明の名称】 遠赤外線入りヘアブラシ

(57) 【要約】

【課題】 遠赤外線入りヘアブラシを提供する。

【解決手段】 ブラシ基台に刷毛を植設して成る刷毛部を設け、該刷毛部を把手部に装着して成るヘアブラシであって、前記ヘアブラシのブラシ基台内に溶融シリカを充填若しくは埋設して成る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ブラシ基台に刷毛を植設して成る刷毛部を設け、該刷毛部を把手部に装着して成るヘアブラシであって、前記ヘアブラシのブラシ基台内に熔融シリカを充填若しくは埋設して成ることを特徴とする遠赤外線入りヘアブラシ。

【請求項2】 前記熔融シリカが球状微粒子であり、更に粒度が $23\mu\text{w}$ 程度でかつ下方径が $6\mu\text{w}$ 以上で上方径が $64\mu\text{w}$ 以下の分級組成から成るS-CO成分のセラミックス系素材である請求項1記載の遠赤外線入りヘアブラシ。

【請求項3】 前記ブラシ基台に軟質性合成樹脂素材を用い、かつ該素材に前記セラミックス系素材を混合若しくは充填して成る請求項1及び2記載の遠赤外線入りヘアブラシ。

【請求項4】 前記刷毛部又は把手部のいずれか一方に、前記セラミックス系素材を充填若しくは埋設して成る請求項1及び2記載の遠赤外線入りヘアブラシ。

【請求項5】 前記把手部が折りたたみ自在と成る請求項1記載の遠赤外線入りヘアブラシ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はヘアブラシに関するが、詳しくは遠赤外線の効果を利用した、いわゆる遠赤外線入りヘアブラシに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のヘアブラシは図1に示すような刷毛部と把手部から構成され、両部が着脱自在となるものが多用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このような従来のヘアブラシは、単に毛髪を整えるためにつくられており、その目的だけにしか使用できないものである。この従来機能のヘアブラシに新たな機能を持たせるために開発したのが本発明のヘアブラシであり、ここに本発明が解決しようとする課題がある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記の如き課題を解決するために開発したものであって、ブラシ基台に刷毛を植設して成る刷毛部を設け、該刷毛部を把手部に装着して成るヘアブラシであって、前記ヘアブラシのブラシ基台内に熔融シリカを充填若しくは埋設して成ることを特徴とする遠赤外線入りヘアブラシの提供にあり、また前記熔融シリカが球状微粒子であり、更に粒度が $23\mu\text{w}$ 程度でかつ下方径が $6\mu\text{w}$ 以上で上方径が $64\mu\text{w}$ 以下の分級組成から成るS-CO成分のセラミックス系素材であり、また前記ブラシ基台に軟質性合成樹脂素材を用い、かつ該素材に前記セラミックス系素材を混合若しくは充填して成り、また前記刷毛部又は把手部のいずれか一方に、前記セラミックス系素材を充填若しくは

埋設して成り、更に前記把手部が折りたたみ自在と成る遠赤外線入りヘアブラシの提供にある。

【0005】すなわち、本発明が解決しようとする課題は、毛髪の通りをよくすると共に地肌に活力を与え、更に抜毛などを未然に防止して髪の毛の色ツヤをいつまでも保つことができるヘアブラシにしようとするところにある。

【0006】

【発明の実施例の形態】

(1) ブラシ基台に刷毛を植設して成る刷毛部を設け、該刷毛部を把手部に装着して成るヘアブラシであって、前記ヘアブラシのブラシ基台内に熔融シリカを充填若しくは埋設して成る遠赤外線入りヘアブラシである。

(2) 前記熔融シリカが球状微粒子であり、更に粒度が $23\mu\text{w}$ 程度でかつ下方径が $6\mu\text{w}$ 以上で上方径が $64\mu\text{w}$ 以下の分級組成から成るS-CO成分のセラミックス系素材である遠赤外線入りヘアブラシである。

(3) 前記ブラシ基台に軟質性合成樹脂素材を用い、かつ該素材に前記セラミックス系素材を混合若しくは充填して成る遠赤外線入りヘアブラシである。

(4) 前記刷毛部又は把手部のいずれか一方に、前記セラミックス系素材を充填若しくは埋設して成る遠赤外線入りヘアブラシである。

(5) 前記把手部が折りたたみ自在と成る遠赤外線入りヘアブラシである。

【0007】

【実施例】以下、図面に従って本発明から成る遠赤外線入りヘアブラシの実施例について説明する。

【0008】図1は、本発明の遠赤外線入りヘアブラシを示した斜視図であり、1はそのヘアブラシ本体である。ヘアブラシ本体1は、ブラシ基台4に刷毛5を植設して成る刷毛部2と、この刷毛部2を装着する把手部3とから構成されている。このように構成されるヘアブラシは従来公知のものであり、本発明はブラシ基台4に特徴を有する。

【0009】このブラシ基台4は、軟質性の合成樹脂素材を一体形成すると共に、この素材の中に遠赤外線（セラミックス）素材の熔融シリカAが充填されている。すなわち、ブラシ基台4内に熔融シリカAを充填若しくは埋設することによって、ブラシ基台4と刷毛部2に熔融シリカAが合成樹脂素材と混合溶解されることになる。したがって、ヘアブラシの使用時に熔融シリカAの成分が毛髪に接触することによって、遠赤外線（セラミックス）の成分効果が得られる。

【0010】また、ブラシ基台4内に混合溶解される熔融シリカAは球状微粒子であり、更に粒度が $23\mu\text{w}$ 程度でかつ下方径が $6\mu\text{w}$ 以上で上方径が $64\mu\text{w}$ 以下の分級組成から成るS-CO成分のセラミックス系素材が使用されている。その化学成分は、次のとおりである。

【0011】

【表1】

製 品 名		シリカ球状微粒子				
		一 般 品		微 粉 品	低 α 線品	
		S-COL	S-CO	S · O	SW-CO2	SW-CO5
粒 度	平均粒径 D_{50} (μm)	28 \pm 3	28 \pm 3	3.0 \pm 1	23 \pm 3	20 \pm 3
	下方径 D_{20} (μm)	6以上	6以上	1以上	6以上	6以上
	上方径 D_{80} (μm)	74以下	64以下	8以下	64以下	48以下
比表面積 (m^2/g)		4.0以下		15以下	3.0以下	
成 分	SiO ₂ (%)	99.8以上		99.8以上	99.0以上	
	Al ₂ O ₃ (%)	—		—	—	
	U (α 線) (ppb)	—		—	0.2以下	1.0以下
熱 水 抽 出	Na ⁺ (ppm)	2.0以下		3.0以下	0.5以下	1.0以下
	Cl ⁻ (ppm)	3.0以下		5.0以下	1.0以下	1.0以下
	PH	5.5		5.0	5.0	5.0
	電気電導度 ($\mu S/cm$)	7.0以下		15以下	5.0以下	6.0以下
ガラス化率 (%)		94以上		97以上	97以上	97以上

更に、このシリカ成分には①ほぼ真球状に近い形状をした直径1~80 μm 範囲の微粒子であること、②高温溶射法により高純度で安定した品質の製品を大量生産方式で製造したこと、③粉体としてまた樹脂充填材としても流動性、充填性に優れていること、④金型などの接触物の摩耗が少なく、きずをつけにくい特性を持っていること、⑤熔融シリカは熱膨張率が極めて小さく、熱衝撃に強い性質を持っていること、などの多くの特徴を有している。

【0012】図2乃至図7は、本発明から成る遠赤外線入りヘアブラシの組立分解図を示したものである。ヘアブラシ本体1は、図2に示すように刷毛部2と把手部3とは分離されており、着脱が自在になるよう構成されている。また刷毛部2は、図3乃至図5に示すように表面部分には刷毛挿着孔6が穿設されており、この孔6に刷毛5が植設されている。この植設された刷毛5は、裏面(図5)の刷毛接着片7にて接着されている。また、裏面部分は4a、4b、4cとから成るブラシ基台4が接合部8を中心にして開閉自在(図6)になるよう構成されている。一方把手部3は、図7に示すように刷毛接着部9内に刷毛部2を挿脱するための係止片10、10が内設されている。

【0013】図8及び図9は、本発明から成る遠赤外線入りヘアブラシの折たたみ式を示したものである。このヘアブラシ11も図1に示したと同様に、把手部13の一端に刷毛15が植設されている刷毛部12が挿着自在となるよう構成されている。また把手部13は、内側に屈曲されるよう構成されており、使用時に折り曲げれば図1に示すようなヘアブラシとして使用することができる。

【0014】図10は、本発明から成る遠赤外線入りヘア

ブラシの他の実施例を示したものであり、図1に示したヘアブラシ本体21の把手部23に熔融シリカAを埋設したものである。

【0015】

【発明の効果】ブラシ基台に刷毛を植設して成る刷毛部を設け、該刷毛部を把手部に装着して成るヘアブラシであって、前記ヘアブラシのブラシ基台内に熔融シリカを充填若しくは埋設して成り、また前記熔融シリカが球状微粒子であり、更に粒度が23 μw 程度でかつ下方径が6 μw 以上で上方径が64 μw 以下の分級組成から成るS-CO成分のセラミックス系素材であり、また前記ブラシ基台に軟質性合成樹脂素材を用い、かつ該素材に前記セラミックス系素材を混合若しくは充填して成り、また前記刷毛部又は把手部のいずれか一方に、前記セラミックス系素材を充填若しくは埋設して成り、更に前記把手部が折りたたみ自在と成る構成になっているので、次のような多くの効果を有する。

ア、遠赤外線入りヘアブラシを提供することによって、従来の単なるヘアブラシには無い効果、例えば毛髪の通りがよくなること、地肌に活力を与えること、枝毛がなくなっていくこと、抜毛を未然に防止できること、など新たな効果が得られる。

イ、ブラシ基台の素材に軟質性の合成樹脂材を用いることによって、遠赤外線(セラミックス)の素材である熔融シリカを容易に混合溶解若しくは充填・埋設することができる。

ウ、従来のヘアブラシにも簡単に加工できるので、製造加工面においても便利であり実用化を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の遠赤外線入りヘアブラシの斜視図。

【図2】 本発明の遠赤外線入りヘアブラシの組立説明図。

【図3】 図1に示したヘアブラシ本体の刷毛部の表面説明図。

【図4】 図3に示した刷毛部の裏面説明図。

【図5】 図3に示した刷毛部の裏面説明図。

【図6】 図3に示した刷毛部の側面説明図。

【図7】 図2に示した把手部の説明概要図。

【図8】 図1に示したヘアブラシ本体の他の実施例を示した斜視図。

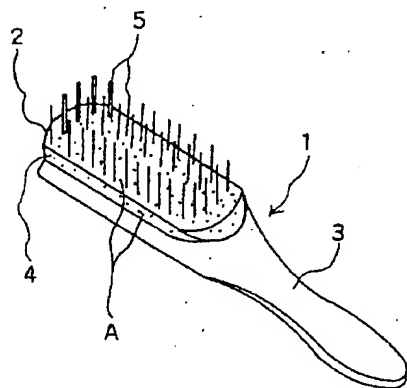
【図9】 図8に示した使用時の斜視図。

【図10】 図1に示したヘアブラシ本体の他の実施例を示した説明図。

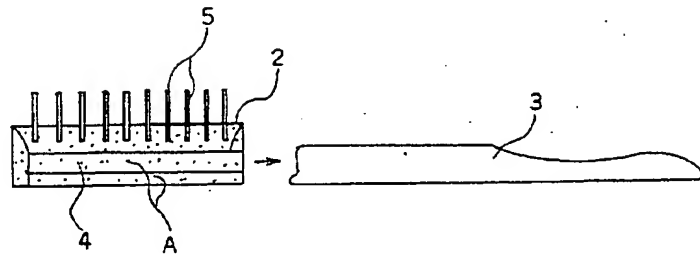
【符号の説明】

1、11、21	ヘアブラシ本体	2、12、22	刷毛部
3、13、23	把手部	4、14	ブラシ基台
5、15	刷毛	6	刷毛挿着孔
7	刷毛接着片	8	接合部
9	刷毛接着部	10	係止片
A	溶融シリカ		

【図1】



【図2】

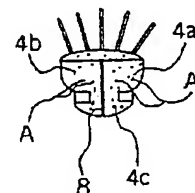
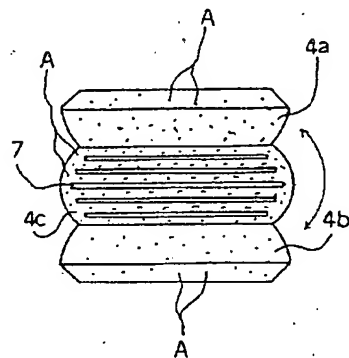
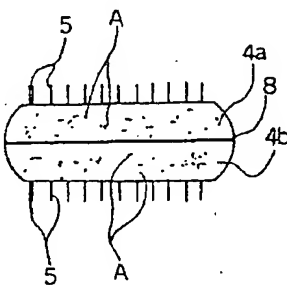
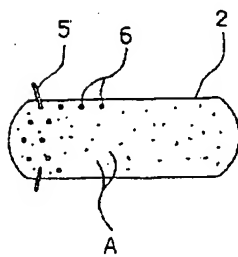


【図3】

【図4】

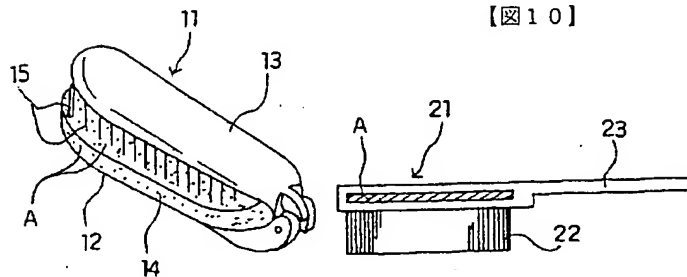
【図5】

【図6】

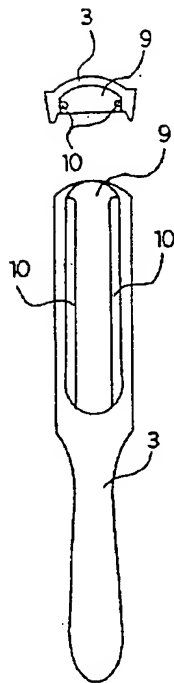


【図8】

【図10】



【図 7】



【図 9】

